

第四章 夢の旅路

25.フェリーの中での過ごし方

綿密な計画と全ての準備が整い、いざ北海道へ向けて出発...

東海以西の方であれば、まずはフェリーから夢の旅路が始まります。そこで宿泊を伴う船旅を想定した、フェリーの中での過ごし方についてご説明をしていきたいと思います。

フェリーの乗船手続きには必ず車検証が必要です。それに関連して、出かける時に気をつけておきたいのがリアキャリアの積荷です。キャリアを広げて自転車などを積んでいる場合、厳密には車輻の長さが車検証の記載をオーバーしています。神経質な係員にあたれば超過料金を取られる場合もありますので、積荷はできるだけ控えめにされることをお勧めします。最悪の場合、荷物を無理やり車内に押し込めなければならなくなります。

また新日本海フェリーの場合は、乗船は運転手と同乗者が別々になります。そこで、家を出る時にあらかじめ家族が船内に持って入る手荷物と、最後に運転手が車から降りして持ち込む荷物を区分けしておきましょう。フェリーが出航すると、車には戻れません。また2等客室には貴重品を保管できる場所がありませんので、カメラなどはフロントに預けるか、終始身に付けておく必要があります。1等個室は部屋に鍵がかかります。

船内は思ったよりも涼しく、長袖シャツと薄手の長ズボンをご用意された方が安心です。また大浴場がありますので、夜に北海道に到着する便なら、夕方に入浴を済ませておくと下船後の段取りがよくなるでしょう。

船内でのリラクシングスペースは数箇所に分かれています。静かで居心地が良いのは1等フォワードサロン。ここは2等客室の方でも自由に出入が出来ますのでお勧めです。ただし大きな声で談笑することはできません。お子様連れのファミリーは、キッズルームやビデオシアターなどの設備がありますので、それらを上手く使い分けて退屈しのぎをさせてあげましょう。食事については、第三章の「持って行きたい食材」の中に詳しく記載していますので、そちらを参照してください。

新日本海フェリー敦賀・小樽便 「あかしあ」の船内



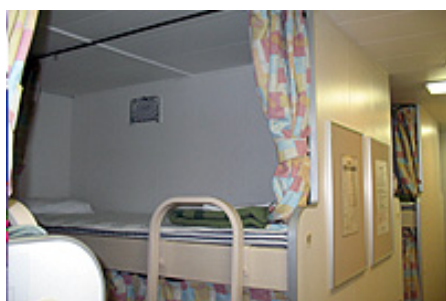
屋外デッキ



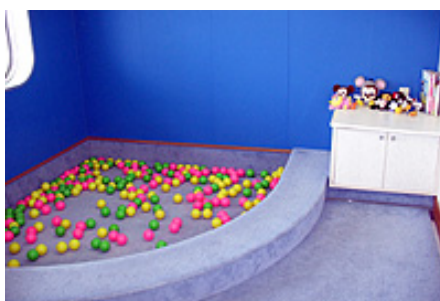
軽食コーナー



1等フォワードサロン



ファミリーにお勧めの2等寝台客室



幼児向けのキッズルーム



売店